

戦没者の慰霊

東 小 笹 き 歩 く

8月15日は終戦から79年目の記念日となります。政府主催の全国戦没者追悼式への参列者も遺族の高齢化などで、年々減少していることが報じられ、時の経過が感じられます。

昨年10月、共興地区で20年ぶりに「戦没者慰霊祭」が執り行われたと聞き、県道299号線を間に小学校と対面するようにある地区の「護国神社」を訪ねました。

境内の案内板「護国神社のいわれ」には、「この神社は、日清、日露の大戦と今次の大東亜戦争で、尊い命を落

とされた、共興地区一六二名の英霊を祀る神社です。」と書かれています。

共興地区では昭和53(1978)年に全戸加入の「英霊に答える会」を結成し、護国神社の整備を行い、毎年4月に区長会はじめ各種団体による英霊顕彰の祭儀を執行したとされます。

日清、日露戦争に従軍後、予備役などの軍人により共興村にも「在郷軍人会」が組織され、大正5(1916)年の会員は236人。当時の世帯数は534戸なので、村の半数近い家から兵士が出ていたことになるでしょう。

昭和11(1936)年、共興小学校に御真影が下賜され、奉安殿が完成し、次第に戦時下教育としての性格が強くなり示されるようになりました。

戦後、昭和21(1946)年、文部省より小学校から奉安殿全面撤去の指示が出されました。共興地区の護国神社の頑丈そうな社殿は、解体を免れた奉安殿の名残のようなものが感じられます。このことは記録や言い伝えを拾うことができなかったため、印象のみとしておきます。

終戦後の戦没者追悼式や慰霊祭は市町村ごとに結成された「遺族会」などを中心に行われ、旧八日市場市では昭和30(1955)年10月より、明治10(1877)年の西南戦争から太平洋戦争までの戦没者約1300人の慰霊祭が実施されるようになりました。

(市文化財審議会委員・依知川雅一)

関秘書課広報広聴班 ☎ 73・0080



共興地区の護国神社